

2011 年度 修士論文要旨

質問フェーズを持つ議論モデルの提案およびシステムの実装

関西学院大学大学院理工学研究科

情報科学専攻 高橋研究室 南部 優

概要

抽象議論モデルの枠組みは、論証とそれらの間の攻撃関係で定義され、グラフで表現されることが多い。論証は根拠と主張の組みとして定義され、これらは攻撃関係とともに論理式で記述できる。現実的な議論を扱うためには論証が起こる理由を説明する必要があるが、多くの枠組みでは論証の内容にまで踏み込まず、シミュレーションや意味論の考察をグラフ上の話に還元しているため、論証が起こる理由を説明するには弱い。本研究では、論拠から相手の推論過程を探り、より踏み込んだ現実的議論の表現を可能にする議論と質問を合わせたモデルを提案する。このモデルでは、反論の余地があるにもかかわらず反論ができない場合、質問をすることで相手に論証の根拠の提示をうながし、新たに情報を得ることによって反論を続けることができる。それによって水掛け論のようになってしまう議論にも決着をつけることができる。